

災害ボランティアの心構え

2011 年 3 月 11 日に日本で起きた東日本大震災により石巻は津波によって壊滅的な被害を受けましたが、その後、全国から災害ボランティアが駆けつけ、復旧と復興のための活動を行いました。

災害ボランティア（または防災ボランティア）は地震・水害・火山噴火などの災害発生時、発生後に被災地で復旧・復興活動を行う人のことで、日本では阪神・淡路大震災後活発化したと言われています。

東日本大震災後の石巻圏での主な活動内容としては、避難所の人の食事を作り、配給する炊き出しがあります。他に、救援物資が届けられる際にトラックから荷物を降ろし仕分けや整理を行う物資の搬入、避難所で行われる物資の配布、建築関係の専門家による建築ボランティアなどがあります。

石巻専修大学には石巻市社会福祉協議会の手で災害ボランティアセンターが設置され、石巻で活動するボランティアの拠点となりました。また、石巻市中心部ではとくにピースボート災害ボランティアセンターの活動が目立っており、炊き出し、仮設住宅への物資搬入、仮設商店街のお手伝い、泥だし・清掃活動避難所の生活サポートなどのさまざまな支援活動が展開されました。

全国的なボランティア活動の傾向としては、2011 年 10 月までの 1 年間に、災害関連のボランティア活動に携わった人は約 431 万 7000 人で、5 年前の 3.2 倍と推計されています。これは、総務省の社会生活基本調査の生活行動に関する結果です。

東日本大震災の発生が災害ボランティア人口の増加につながり特に被害が大きかった東北では人口に占める割合が高かったとされています。調査は 10 歳以上の男女約 20 万人の 1 年間における活動状況から地域・年齢別の割合などを推計しています。11 年は「10 歳以上人口に占める過去 1 年間に災害ボランティア活動を行った人の割合」＝「行動者率」が 3.8%で、06 年の前回調査より 2.6 ポイント上昇。都道府県別では岩手、宮城が 11.1%と最も高かった。総務省は「11 年 3 月に発生した東日本大震災を受け、被災地やその周辺地域で災害ボランティアを行った人が特に多かった」とみています。

行動者率を年齢階級別にみると 40～44 歳が最も高い 5.6%、次に 35～39 歳および 45～49 歳が 5.5%、50～54 歳が 5.0%となっており 35～54 歳の幅広い年齢層で 5%以上になっています。また平成 18 年と比べると全ての年齢階級で上昇しており 35～49 歳では 4.0 ポイント以上上昇しています。

雇用されている人について行動者率を男女、企業の従業員規模別にみると、社会貢献活動の一環としてボラン

ティア活動の支援などを行っていることもあって男女共に企業の従業員規模が大きくなるほどに高くなっています。

次に在学者について行動者率を平成 18 年度と比べると「大学・大学院」を始め全ての学校の種類で上昇しており、その中でも特に「大学・大学院」が 5.3 ポイントと大幅に上昇しています。また学校の種類別に見ると「大学・大学院」が 6.0%と最も高くなっています。

男女別の活動人数は、06 年度が男性 72 万 1 千人、女性が 59 万 9 千人であったのに対して 11 年は男性が 184 万人、女性が 247 万 7 千人と大幅増加となっています。

私のような東日本大震災の被災地の宮城県に在学する、大学生の男性が活動を活発に行っていることがデータでわかり、ボランティアを身近に感じます。

ボランティアに参加しようと思ったきっかけやその目的は一人ひとり異なっています。しかし多くの場合被災地でさまざまな人達が苦しんでいることをテレビやインターネットで知り「自分もなにかできることはないのか」「被災地で苦しんでいる人の役に立ちたい」と考え行動に移すようです。

災害ボランティアが被災地で活動していくうえで大切なことは、しっかりと心構えをもつことです。行政のホームページには次のような防災ボランティアの心構えが、マニュアルとして示されています。

(1)自分自身の自立－被災地ではボランティア自身の飲料水や食品等の調達や宿泊場所の確保が困難と想定されます。そのため、事前に現地の状況把握をしたうえで必需品を確認調達し一般的に水、飲料水、宿泊テントや寝袋、活動に必要な機材は自分で自活できるように準備していくことが大切です。

(2)状況を知る－活動を始めるにあたっては現地の活動団体等に参加しオリエンテーションを受けることが大切です。そのことが詳しい現地の状況を知ることにも自分の活動内容や役割を確認することにもなります。

(3)考えた行動－ボランティアとしてできること、できないこと、してはいけないことを考えて無理のない活動をする必要があり活動自体が被災者の自立を阻害することや自らが危険に陥ることがないように心がけることが大切です。

(4)意思の尊重－災害ボランティアは被災地の生活を支援することを目的に活動をする。活動は「～してあげる」といった押しつけがましいものではなく、被災者の意思を尊重し活動することが大切です。

(5)健康管理－ケガや病気、事故に充分注意しまた疲労や睡眠不足にならないように健康管理

仙石線の現状

石巻と仙台を移動する際には、主に自動車か宮城交通の高速バス、JR 仙石線が利用されています。震災前、石巻専修大学学生の多くが仙石線の利用者でした。

仙石線は、石巻と仙台市を結ぶ鉄道路線です。1925年に宮城電気鉄道として開業し、1928年に石巻まで延伸されました。石巻駅ーあおば通駅までの全長は 50.2 キロあります。東北地方の他の多くの路線で採用されている交流電源ではなく、首都圏などで用いられている直流電源で走っている仙石線は、鉄道ファンの間でも知られている路線です。

震災前、石巻まで走る快速と各駅に止まる普通電車が、1 時間に 1 本ずつ設定されていました。宮城交通の高速バスも同じくらいの本数がありましたが、大学まで来る本数の少なさと使い勝手の悪い時間設定、値段などで仙石線を選ぶ学生が大半でした。

しかし東日本大震災が発生し、沿岸部を走る仙石線は地震と津波の影響を受けてしまいました。一時は全線で不通となりました。三陸自動車道も被災し、石巻と仙台の交通事情は混乱を極めました。

三陸自動車道は渋滞することが増えました。その影響で、高速バスは遅延が多くなりました。特に渋滞がひどい日には、所要時間が 3 時間にもなることがありました。また、震災前よりも利用客が増え、バスの本数も増えましたが、混雑するようになりました。

その後、三陸自動車道の復旧が進み、車線が増えました。今年 1 月の時点では、高速バスの遅れは減り、約 1 時間 40 分程で走ります。

仙石線は、震災前は最速で石巻と仙台の間を 1 時間 3 分で結んでいましたが、今は不通区間でバスに乗り換えるため、片道 2 時間近くになりました。

そこで JR は、石巻線から小牛田を経由して東北本線を通り、仙台までノンストップで走る直通快速を朝と夕方の 2 往復で走らせています。

仙石線も現在は復旧が進んでいます。石巻駅から矢本駅の間が、ディーゼルカーの運行で再開され、その後陸前小野駅まで再開しました。高城町駅ーあおば通駅間は、現在ではほとんど震災前の水準に戻っています。

しかし、陸前小野駅ー高城町駅間の約 12 キロは、今でも代行バス運行です。JR 東日本はこの区間の線路の一部を内陸に移設し、2015 年の復旧を目指しています。

この全線復旧に合わせて、高城町駅ー松島海岸駅間に東北本線につながる接続線が建設される予定です。東北本線に乗り入れることで、途中駅が減り、石巻と仙台は 1 時間以内で結ばれます。前述のとおり電源が異なるため、車両はディーゼルカーが使われる予定です。

石巻と仙台の交通が便利になれば、その先の福島や東京など大きな街との交通が便利になります。今後、仙石線を使い石巻に訪れる人が増えることが、石巻の復興と地域活性化に役立つと思います。

(菊池駿)

	仙石線	高速バス
震災前	1 時間 3 分	1 時間 24 分
震災後	約 2 時間	約 1 時間 40 分
今後	1 時間弱	不明

被災業者設立の会社～再起へ～

石巻市狐崎(きつねざき)浜で、カキ養殖の漁業者たちが殻付き牡蠣をそのまま蒸して食べられる、「岬焼きかき産直セット」を販売しています。このセットは、浜の雰囲気家庭で楽しめると好評で、リピーターも増えているようです(『河北新報』平成 25 年 1 月 11 日)。

狐崎浜は、牡鹿半島の南側に位置し、太平洋の暖流と寒流が交わり、緑豊かなミネラルの恩恵を受けます。このことから、セットを PR するチラシには、狐崎浜の牡蠣は、濃厚な甘みがあり、ミネラル、ビタミン類の栄養も豊かで、海のミルクと呼ぶにふさわしい最上質の牡蠣ですと記載されていて、非常に興味をそそられます。

セットは、発送当日に水揚げした加熱調理用の牡蠣 15 個入りで、料金は 3,150 円。ふたに蒸気を通す穴を開けた専用缶に入っています。缶に水を入れて直接火にかけると、7～8 分で蒸し牡蠣が出来上がる仕組みになっています。セットには、殻付き牡蠣をむく際に必要となる軍手とナイフが付属されていて、消費者への配慮がみられます。

東日本大震災後に種付けした牡蠣の実入りが良かった昨年 12 月に、セットの販売を始めました。電話やファックス、電子メールで注文を受け付け、宅配便で届けます。県内のほか関東、関西などからも注文が舞い込んで、年末は多い日で 50 個を発送したこともあったようです。

今年 1 月の 12～14 日には仙台市若林区の食品市場・杜の市場で、電子レンジで調理できる真空パック入り殻付き牡蠣を直売したようです。

「岬焼きかき産直セット」の販売に関しては『河北新報』しか記事を掲載していないようなので、東北以外の人々が情報を得る機会